

米子に平和 モデル施設を

人間自然科学研究所

「中海・宍道湖圏域を平和コンベンション都市」と提唱する、財団法人人間自然科学研究所(松江市乃木福富町、小松電機産業内)の小松昭夫理事長がこのほど、米子市内で講演し、「米子に世界恒久平和モデル施設を」という構想を明らかにした。写真。

中海圏域の経済人二十人が出席した会議で、表明。中海に面した同市大崎の米子崎津団地に、国内外の戦地から集めた土、石、樹木で平和祈念の森と干潟を造り、森に



囲まれた三つの平和施設を整備したいと述べた。

「ト」を活用した「平和教育研究施設」、アジアの戦没者を記録した「平和祈念施設」、平和を考える戦争資料を集めた「世界の戦争と平和記念館の写真映像展示館」で構成。特区制度を活用して国に土地を提供してもらい、建設と運営は民間資本で行う。

小松理事長は「山陰は平和地域として中国、韓国に受け入れてもらえる。アジアの中で確固たる地位を築くべきだ」と訴えた。